

地域連携だより 秋

～ 下肢静脈瘤外来のご案内 ～



日頃より、当院との地域連携において患者様をご紹介頂きありがとうございます。
心臓血管外科の寒川顕治です。近年、下肢静脈瘤を主訴として来院されます患者さんや紹介患者さんも増えてまいりましたので、そうしたニーズに応えるべく、この10月より心臓血管外科にて、下肢静脈瘤外来を開始させて頂くことになりましたので、本誌でもふれましたが、この場をお借りして先生方にお知らせ致します。

私達は患者さんの活動能力や全身状態を考慮して、できるだけ元気に幸せに生活を送って頂けますように患者さんご家族にできるだけわかりやすい説明を心がけ、十分な理解と納得を得られた上で手術を受けていただいておりますので、些細なことでも、お困りごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。

今後ともよろしくお願い致します。

■ 診療日時 ※完全予約制です 毎週木曜日の午後

※予約・問合せは地域連携室までお願いします。

■ 下肢静脈瘤について

原因・症状

長時間の立ち仕事や妊娠・出産が主な原因です。遺伝的な要素もあると言われています。
立ち仕事の後の下肢のだるさや腫れ、夜間のこむら返りが主な症状です。
病気が進行すると痒みを伴ったうつ滞性皮膚炎や治りにくい潰瘍ができることもあります。

治療の適応

静脈に逆流があり、下肢静脈瘤による症状が強ければ治療の適応です。
皮膚炎や潰瘍がある場合は特に治療が必要です。

治療法

代表的な治療法としては、
手術で悪い静脈を引き抜くストリッピング手術、
血管の中から治療するレーザー治療と高周波治療があります。
当院ではストリッピング手術と2014年6月から保険適用となりました高周波治療を行っています。



高周波治療器

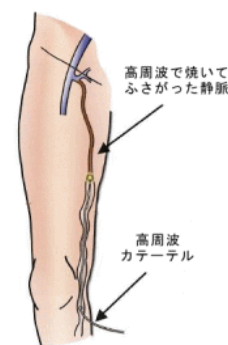
■ 血管内高周波治療について

どのような治療ですか？

悪くなった静脈の中に細いカテーテルを通して、高周波の熱によって静脈をふさいでしまう方法です。
以前から行われているストリッピング手術は、悪くなった静脈を手術で取り除きますが、高周波治療は中から静脈をふさいで血を流れなくしてしまう治療です。
また、レーザー治療より低い温度で治療でき、安全と言われています。

良い点は？

高周波治療は身体に優しい“楽な”治療です。
従来のストリッピング手術では足の付け根と膝の2か所を切開しなければならないのに対し、高周波治療では膝下の一箇所だけに細い針を刺すだけで治療することができます。
レーザー治療に比べても手術後の痛みや皮下出血が少ないと言われています。



血管内高周波治療

先生方の診察室が、松山市民病院につながります。続報

松山市民病院では、地域医療連携を推進させて頂くことを目標に、患者さんに安全で質の高い医療を提供できる地域医療連携システムを従来より採用しておりましたが、このたび、**MACをお使いの先生方**にもご利用いただくことが可能となりましたので、お知らせ致します。引き続き医師会システムとの連携構築に努めてまいります。

システムのご導入により心電図検査などの生理検査、投薬・点滴内容、特定疾患、保険会社の書類等をシステムを通じて先生方にご閲覧頂くことが可能なシステムとなっております。

システムのコンセプトは私たちと先生方との間で連携を取ることで、患者様にとって、より良質で効果的かつ継続的な医療の実現を目指しています。



地域連携室に新しい仲間が増えました。(写真左より小笠原・張・芳野)

看護師 芳野 いづみ idumi yoshino

看護師 小笠原 恵美 emi ogasawara

今までに得たケアマネージャー・看護師の知識を活用し、患者さん、家族様の希望に副った退院支援ができるように頑張りたいと思います。

在宅でのケアマネージメント知識を活かして、安心して退院できるよう支援していきたいです。よろしくお願いします。



事務員 張 幸 sachi hari

新しく地域連携室に入りました張です。一生懸命がんばります！よろしくお願いします。

お問い合わせは 地域医療連携室 まで

TEL 089-913-0081 FAX 089-913-0083